

平成 26 年度 第 3 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成 26 年 10 月 24 日（金）午後 6 時 00 分～午後 8 時 20 分

【場所】市役所 6 階 602 会議室

【出席者】

＜河内長野市文化振興計画推進委員会委員＞

末延 國康・浅尾 広良・荒川 透・今村 尚美・中道 厚子・長山 公一・中脇 健児・
寶楽 陸寛・水落 学・安福 廸子

＜事務局＞

（河内長野市教育委員会事務局文化・スポーツ振興課）

大江・森井・上田・東畑・西尾

（ランドブレイン株式会社）

西村

【配布資料】

- ・平成 26 年度 第 3 回河内長野市文化振興計画推進委員会 次第
- ・資料 1 第 2 回河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録
- ・資料 2 文化施設評価軸（案）
- ・資料 3 市民アンケート調査票（案）
- ・資料 4 河内長野市文化振興計画策定スケジュール
- ・別紙 1 文化施設評価軸 ラブリーホールセルフチェック結果
- ・別紙 2 ラブリーホール(河内長野市立文化会館)概要
- ・別紙 3 ラブリーホールの魅力
- ・別紙 4 公益財団法人河内長野市文化振興財団 概要
- ・別紙 5 アンケートについて修正点一覧表

以上

(委員長挨拶)

末延委員長

まず諮問に関して、事務局よりお願いします。

(委嘱状交付)

上田主幹

次期文化振興計画策定について、正式にご依頼申し上げるために、諮問書をお渡します。今回の諮問により、今後次期文化振興計画策定に向けて委員のみなさまにご意見いただくこととなります。

本日は、ラブリーホールについての具体的な評価を各委員よりいただき、評価軸の検討に一定の目処をつけさせていただきたいと思います。

宝楽委員のご協力により別紙の通り評価シートをご用意していますので、各委員のみなさまに、この評価シートへのご記入をお願いします。評価シートについては、点数による評価に加え、コメント欄を設けていますので、各評価項目の数値に対する理由、及びご意見等をご記入いただきたいと思います。本日は、委員のみなさまにラブリーホールの評価をしていただきますが、ラブリーホール側にも同様の自己評価を依頼しています。この自己評価の結果と第三者である委員会のみなさまの評価結果の差について、後ほど分析し、ラブリーホールの次年度以降の事業に活かすと共に、次期文化振興計画の検討の際に、活用させていただきたいと考えています。

次に今後のスケジュールについて、資料4の計画策定スケジュールをご覧ください。平成18年度からの10年間を計画期間とする現文化振興計画は、平成27年度をもって計画期間が終了します。そこで平成28年度以降の文化振興を総合的、計画的に進めるための指針として第二期文化振興計画を平成27年度に策定します。正式に市長より諮問という形で、次期文化振興計画策定についての検討を、委員長初め委員のみなさまにご依頼させていただきます。今後は、市民アンケートの検討、さらには計画項目の内容についての検討などをお願いします。

なお前回より、当委員会に同席いただいている、株式会社ランドブレインには、当委員会初め次期計画策定について各種事務業務を引き続きサポートしていただく予定です。

アンケート調査は、文化振興事業全般についてお聞きするものである他、これまでの委員会での検討事項として上がっていた、認知度・満足度などについても盛り込んで実施させていただきます。詳細については、後ほどご説明させていただきます。

西尾

それでは、諮問書をお渡しします。

大江部長

(河内長野市文化振興計画推進委員会 委員長 末延 國康様へ諮問書交付)

末延委員長

確かに拝受した。委員のみなさまご確認をお願いします。

今日は、宝楽委員より提案いただいた、文化振興計画評価軸が検討の中心となる。資料2

をご確認いただき、宝楽委員にはご説明をお願いする。

(文化施設評価軸について議論)

宝楽委員

前回は 5 段階評価で案を作成していた。それでは評価しにくいのではないかと意見を受けた。また、項目も完全に網羅できているわけではなく、感覚的な評価の部分もあり、点数を変更した。できている 3 点、普通 2 点、できていない 1 点という視点で、8 つの大項目の中の小項目をそれぞれ評価する形にした。そして、理念、持続という大項目ごとに集計し評価をする形とした。採点時に、点数の理由もご記入いただきたい。各項目の評価時の参考視点は「※」印で補足している。

また、ラブリーホールの現場職員が同じ評価軸で自己採点したものがあるので後ほど配布いただく。各委員の点数の平均点を出した上で、ラブリーホールの現場職員の採点と比較し、その評価の違いがなぜ生じたのか等が、第二期文化振興計画の策定に活かせるポイントと考える。

評価に際しては、これまでのラブリーホールに関する資料や委員会での議論をもとにご判断をお願いする。

末延委員長

ラブリーホールからの概要資料 3 枚と、以前ラブリーホールにヒアリングした際の資料を改めて参考として検討いただきたい。

宝楽委員

補足で、前回委員会資料 3-②も評価軸の参考になると思う。

中脇委員

ラブリーホールからの前回の資料 3 と今日の資料で評価の参考資料として十分なのか？
決算報告はどうか？

宝楽委員

平成 25 年度報告書の別紙 5 もしくは資料 4 で確認できる。全国と比してどうなのかという議論もあるが、今回は各委員の主観により判断いただきたい。

末延委員長

30 分を目処に各委員、評価をお願いする。

宝楽委員

回答理由については、理由がある場合だけ記述してください。また他の点について疑問があればお伝えいただきたい。

安福委員

小項目がそれぞれ 3 点ずつと評価した場合、点数欄は 9 点でいいのか？

宝楽委員

その通りである。

末延委員長

各委員の平均点をまとめることとする。

(大項目平均点を集計)

宝楽委員

委員会の採点項目、持続 2.5 点、理念 2.4 点、福祉 1.8 点、教育 2.1 点、認知 2.1 点、満足 2.4 点、稼働 2.6 点、収益 2.2 点の結果となった。また、ラブリーホールの自己評価平均点については、持続 2.7 点、理念 2.5 点、福祉 2.7 点、教育点 2.0、認知 2.8 点、満足 2.3 点、稼働 3.0 点、収益 2.7 点であった。

荒川委員

稼働は 0.4、収益は 0.5 の差がある。

宝楽委員

特に稼働・収益については手元情報に差があることが分かる。

中脇委員

自己採点でそれほど厳しい評価は難しいのではないか。

宝楽委員

指定管理者という立場からも難しい。

末延委員長

設問毎に意見を伺っていく。では持続からお願いします。

中脇委員

持続の 1，連携性について。既存の文化団体との連携はできているが、それ以外が弱く、特に地域資源という言い方で捉えると、できていないと評価した。

中道委員

私も、持続の 1，連携性について「できていない」と評価した。特定の団体に限られており、市域全体を入れた連携とは捉えられていないと評価した。視野が狭いと感じた。

末延委員長

私も、つながりという意味ではできていないと評価した。子ども、青年、大人それぞれが単発で終わっている。単発としては高い専門性が評価できるかもしれないが、終わった後のつながりに活かせていないと感じる。

宝楽委員

ラブリーホールは文化振興財団アクションプランという計画を定めている。しかし、アクションプランそのものが外部に公開されていないので、できていないと評価されても仕方ない部分もある。

安福委員

私は文化連盟に所属している立場として、持続していると評価した。しかし、単発と言われるとそう言われても仕方ないと思う。

末延委員長

続いて、理念について。

宝楽委員

概ね平均点ではある。芸術性について、ラブリーホールは CS 調査を行い、顧客満足度を

測っているという点で「できている」と評価している。文化全体を見れば多様な満足度を高めているが、公文協の平成 25 年度調査と比して、音楽公演の割合が少し低く、総合文化、舞台などは全国比でも高い。オペラ等は舞踊に含まれてしまう。

中協委員

オペラができる劇場は、芸術性が高い事業を行っていると言える。

末延委員長

ラブリールホールによる中長期的な視点という計画策定があるので、評価できる。

宝楽委員

報告は毎年行われているが、中長期の視点という意味では報告書からは見えてこないと感じる。

末延委員長

理念については以上だろうか？では続いて福祉についてはいかがか？

宝楽委員

社会課題への機会提供について、ラブリールホールは子ども料金、障がい者への割引等があるという点が自己評価での判断につながったのかと思った。

荒川委員

子ども料金、障がい者への割引等は当然ではないか？

今村委員

私は、社会課題については、できていないとした。例えば大ホールに、子どもが泣いても大丈夫な親子室があることについての認知度は低い。しかもその部屋は子どもを連れて落ち着けるとは言えない。子ども同伴の方は少ないかも知れないが、もう少し小さい子どもと共に来れるイベントを増やすか、親子室の工夫が必要ではないか？

中道委員

親子室の見学の際も、直接質問した。その際の回答状況も、視野に入っていないと感じられるような回答であった。積極的に使っているようには思えなかった。

中協委員

そもそも河内長野市がどういった地域課題を設定し、文化振興財団に投げかけているかが見えない。財団側から見ると、市として何を中心に課題をとらえ、どう取り組めばいいのか示して欲しいと思うのではないか？

水落委員

私も、その点同感である。財団からすると、この設問は降って湧いたような話に見え、点数としてマッチングしないのではないか？

中道委員

親子室があるのに、活用されていないということは、だめなのではないか？

水落委員

知っている人と知らない人の公平性、平等性をどう保つのかも問題になる。無かったことにすることも平等性と考えることもできる。

中協委員

親子室はスピーカー音での再生になる。ホールとしては生音で聞いてもらい、お金を取るということが本筋になるので、仕方ない部分もあるのではないかと？

水落委員

ラブリーホールの運用方法による。例えば、子どもが泣いた時の緊急避難的に親子室を案内している場合もあり得る。

荒川委員

フェスティバルホールでは、託児室を予め設けている場合もある。

末延委員長

今、北大阪のホールでは、託児室を設けているところは多い。

宝楽委員

アウトリーチの数について、公文協の平成 25 年度調査と比して、割合では全国は 22.8% でラブリーホールが 23.5%。こうした数値からは普通といえる。事業数の数で見ると、ラブリーホールの事業数は多いと言える。

末延委員長

次に教育の検討に入りたいと思う。

中道委員

次世代的視点について「できていない」とした。子どもたちへのワークショップ等を行っているが、本人やご家族が満足できても、それは古いパターンではないか？次世代の人材が次の時代の担い手になるような、自分たちだけでなく楽しさを広げるような視点での育成でないと「循環」は起こらない。もう少し新しい視点で、育成の取組みが必要ではないか。

今村委員

アウトリーチについて、選択肢が少なく、来て欲しいアーティストを選べない。現場サイドとしてアウトリーチに望むのは、いろんなジャンルがあり選択できることという意見がある。

宝楽委員

アウトリーチは市から文化振興財団への委託事業であり、依頼で動いているため降って湧いたような話なのかもしれない。一方で、福祉施設への働きかけとして、現場のニーズを聞いているが、学校へはニーズ調査が不足しているとも言える。

末延委員長

学校へのアウトリーチを継続して行っていることは一定「良し」とし、あとは内容の改善が課題とまとめられる。

中協委員

ホールとしては努力している方と思えるが、ラブリーホールの自己評価は普通であることが意外。

宝楽委員

教育については普通だが、福祉施設への働きかけは出来ているということか。

末延委員長

では、続いて認知について。

宝楽委員

HPのアクセスとリターンについて。

浅尾委員

この数字が多いのか少ないのか、判断できない。

荒川委員

一日100件がどういう100件なのか。少ない気もする。私は普通とした。例えば有名な劇団のサイトであればもっと多いのではないかと比較してもどうかとは思いますが。

市民アンケートについて、ラブリーホールは理解を間違えている。

中協委員

事業ごとのアンケートではない。市民アンケートはまだ行っていないので、私は「できていない」に配点した。本設問にはラブリーホール側には書きようがなかった。

宝楽委員

HPアクセスとリターンについて、資料にはアクセス数しか記載がなく、PV数やユニークユーザー数があるはずだが、出ていないので判断できない。

荒川委員

メディア掲載について「できていない」とした。一般のメディア掲載が9件と少ない。

中協委員

伊丹では、私の担当する事業だけで一般のメディアへの掲載数は9件を超える。少ないと思える。記者が書きたくなるような情報の出し方ができていない。

末延委員長

できれば、記者に渡すのではなく、こちらから持っていけないといけない。そういう働きかけをしないと受け付けてくれない。

中協委員

9件ということはありえない。数えていないということか？

末延委員長

事業担当者が、事業レベルで数えている程度なのだろうか。また、ポスター・チラシは「できている」にしたが、メディアは良くないと感じた。HPについては、年配者には浸透しにくいと思う。

宝楽委員

もっと丁寧に行うなら、全国の調査結果と比較すべきだとは感じた。

末延委員長

次、満足の検討に入りたい。

中協委員

ラブリーホールの会員数について、月ごとに推移していることに驚いた。更新しないと

いうことだろうか。

宝楽委員

主催事業の来場者数は 26800 人。それに対して会員数 1000 名は多いのか少ないのか。

浅尾委員

11 月から 1 月に集中するのは訳があるのだろうか？

中協委員

会員になれば先行予約が取れるなど、メリットがあるときだけ登録している会員がいるのではないかと。月ごとの増減は仕方ないとして、経年の変化の推移が必要。減っていないにしても、構成年代の推移を分析することが必要。また、構成年代に対してのアピールが必要。

中道委員

特典等が分かりやすければもっと増えると思う。

浅尾委員

来場者の 3 分の 1 の会員数とは、構成比としては多い方になるのか？

中協委員

多いと思う。

宝楽委員

経年変化等は、ラブリーホールに宿題として確認すべき。

末延委員長

次に稼働について検討したい。

宝楽委員

公文協の平成 25 年度調査では、全国平均 76.4% である。90% 近いラブリーホールはすごいと感じた。

中協委員

少し意地悪な視点で言うと、できすぎていて施設を利用した新しい取組みを行うときに、余白がなさすぎて入り込めないのではないかと。このままではいけないと思いながら、そもそも余白が無くてできないという問題もある。自主事業についても貸館についても、新しいチャレンジに対しての余白がない。

宝楽委員

公益財団法人になり、収支の制約がある中で、新しい事業への制約として事業の現場への 2 重の重しがある可能性はある。

末延委員長

続いて、収益の視点について。

宝楽委員

助成金活用度については、取っていることを良しとするのか、自主財源率を得ていることを良しとするのか、についての議論が第二期文化振興計画の策定時には必要だと感じた。全国で見れば、もっと助成金を得ているところは多い。助成金を得ていることを評価する

とは何を評価しているのかと疑問に感じた。

中脇委員

助成金を使わずにできるのなら、それに越したことが無いと言える。

中道委員

一方で、新しいことをしようと思うとお金はかかる。

中脇委員

伊丹では、助成金の枠を先に当てにして事業を構築している場合があり、落ちた場合に現場が慌てることが多い。助成金の使い方は難しい。

水落委員

芸文基金については、団体側が申請額の半額を支出しないと得られない。額が大きいほど持ち出し額があるといえる。1000万円の芸文基金に応募した場合、1000万円のリスクがあるといえる。以前は大きいものをとっていたかもしれないが、財政の中でできる範囲でとろうとしているのではないか。

末延委員長

年々、芸文基金を初め助成金活用そのものが厳しくなっているのか？

水落委員

全体的に厳しくなっている。申請を出せば取れるわけではない。そういう中で、継続してとれていることは、何かしら評価されており、プラスに判断していいのではないか。

末延委員長

総括としてはいかがか？

宝楽委員

全国的な調査と比較し客観的に判断すべきところもある。また現場の担当者が見た目線と、第3者で見た目線について、第二期文化振興計画にどの程度反映するかも懸案である。今回の評価軸が委員会の公的な指標になってしまい、指定管理者制度での評価に活用されるような流れが今後生まれるのであれば、もう少し熟議が必要と考える。評価軸の数字がひとり歩きする恐れはあると感じている。

末延委員長

今回の検討成果を、今後の問題点として、記録することに意義がある。

宝楽委員

評価軸での評価が、本委員会の枠を越えて動いてしまうことへの心配がある。

中脇委員

今回の検討成果は、参考程度の扱いだと思う。

宝楽委員

福祉・教育・認知といった指標に関連した課題は、行政課題として取り組むべき指標だと思う。従来文化政策の担ってきた領域と、福祉・教育・認知といった領域とをどのように扱っていくかは、第二期文化振興計画策定時に議論を深める必要があると考える。

末延委員長

委員会での評価とラブリーホールの自己評価との差異については議論し、今後の計画に盛り込むという方向で良いか？評価軸の検討は一旦終えて、今後活かしていくこととする。

宝楽委員

各委員の採点したものは、コピーしておいたほうが良いのではないかと？

中脇委員

各委員の評価について、どの背景で意見を言ったのかを含めて共有した方がよい。

東畑主査

一旦お預かりし、コピーをとり各委員へ郵送します。

水落委員

本日、来ていない方にも記入をお願いすべきだと思う。

(市民アンケートについて)

末延委員長

資料を事務局に提出しましょう。続いて、アンケートについて説明をお願いします。

ランドブレイン西村

資料 3 市民アンケート調査票 (案)、別紙 5「アンケートについて修正点一覧表」をご確認いただきたい。

アンケート全体について、配布対象は人口比率の縮図ではなく、世代別の均等配布にすることとする。なお、16歳～19歳も対象に含めた。また、記入いただいた方への御礼は実施しない。

調査票の修正点については、A3表裏1枚になるよう圧縮した。内容については、(問1)(問2)のチェックの仕方を整理した。次に、(問1)の施設、(問2)の文化事業については文化・スポーツ振興課によって整理した。

(問3)については、個人の行動変化を問う方がよいとの指摘があったので、2-(問9)へ移動した。(問3)は大科目を一つにし、④創造の場所をつくる、⑦さまざまなコミュニケーション・ツールの開発と提供、⑧「評判」を語り合おうといったもともと取り組んでいない項目については、削除した。(問3)の⑩行政の文化化は、客観的事実として実施していることが証明できるため、個人の行動変化を問う今回の設問では省いている。

(問6)は前回の会議で、省略した方がよいとのご意見を頂戴したので、削除した。(問7)は「みる・きく」という言い方に変えた方がよい、とのご意見を頂戴したので、そのような問に変更した。(問8)(問9)は一つにまとめている。(問13)は重複しているため削った。

大きい設問3・4は一つにまとめている。(問14)の13学校教育は重複していたので削除した。代わりに「多文化共生」のキーワードを入れた。(問18)家族構成への問いについては、省略した。(問20)兼業の方もいるとのことだったので、該当項目すべてチェックできるように変更した。(問16)(問17)の設問は一つにまとめた。年齢についての質問は、河内長野市のアンケート調査に準ずる形にしている。

末延委員長

ご説明ありがとうございました。この形で、市民アンケートを行うことになる。年齢別の配布先については16歳から配布するということになる。

中道委員

問9で、河内長野市は祭が盛んであり、旧村部は祭の存在が大きいと思う。河内長野市の特性を浮き彫りにするためには祭の項目が必要ではないかと思う。

末延委員長

だんじりに燃えている若者も多く、今ではだんじりの無い地域の若者は他の地域に参加できるようになっている。

中道委員

必ず変容していると思うので、浮き彫りできないのはもったいない。

水落委員

問3の「以下の表のあてはまる欄に○印をつけてください。」について、問5と同じように「一つだけ」というキーワードを入れたほうがいいのか？また、問12の4について「制度などの整備（共催、後援といった名義支援、減免支援、補助金など）」とあるが「減免支援」というのは河内長野市として表現は大丈夫か？減免制度ではなく、減免を支援するのか？

末延委員長

こういう言い方があるのか？減免を進めるという意味か？

宝楽委員

文化施策を減免することで支援するという言い方はあり得る。文化団体やボランティア団体であれば割引があるといったように。団体側から見た時に「支援を受けている」と感じるのではないか。一方で、言葉が誤解を生む可能性がある。

水落委員

「減免する手続きを応援するものですか？」という意味に取られかねない。「減免・補助金制度」のように、そういった制度があるという表現にした方がいいのではないか。

末延委員長

事務局でご検討いただきたい。

他にご意見あれば私か事務局にお伝えいただきたい。

中協委員

アンケートは、配布して集計結果がでるのはいつか？

宝楽委員

資料4に書いている策定スケジュール通りか？

ランドブレイン西村

資料4の策定スケジュールについて、11月に調査票の印刷・配送準備を行い、11月～12月に回収できればと思う。また、集計・分析に1ヶ月半かかるので、年明けにはまとまった報告ができる。

中協委員

資料 4 における、委員会開催⑤のところでは報告が聴けるということか？その際に、ギャップのあった認知や福祉についての方向性が見えてくるということになる。

回答結果によっては、私たち委員が考えを改める機会になるのか、ラブリーホールに改めていただくのか、方向性が見えてくると言える。

末延委員長

両方あって良いと思う。

水落委員

統計結果の集計だけでなく、集計前の生データを見ることはできるのか？

ランドブレイン西村

自由回答については、まとめて入力する予定である。通常あまり、調査票を委員のみなさまにお渡しすることはない。

水落委員

アンケート回答者がどれだけ従順に回答しているのか見たい。ルールに囚われない回答がある場合、この形式の今後のあり方にも関わる。

末延委員長

アンケートを参照したいとき、生の調査票見れるのか？

東畑主査

検討させていただきたい。

中脇委員

市民アンケートの集計が出るまでに、資料 4 では再度委員会が開催される予定になっている。こういった議題で行うのか？

末延委員長

今回は 11 月下旬か 12 月初旬と考えている。

東畑主査

アンケートを配布とは別に、次期計画の項目について議論頂きたい。

中脇委員

市側から題目が与えられて、それについて自由討議を行うということか。

末延委員長

これにて終了する。ありがとうございました。

以上